

横手市議会定例会

平成30年度

市長施政方針

平成30年3月

横手市

第2次横手市総合計画

みんなの力で 未来を拓く 人と地域が^{ひら}く^{かがや}くまち よこて

基本計画 政策・施策

政策1 伸び伸び子育てできる環境と、みんなが健康に暮らせるまちづくりを進めます
【健康福祉】

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 【施策 1-1】 子育て支援の充実 | 【施策 1-4】 障がい者（児）福祉の充実 |
| 【施策 1-2】 健康な心と体づくりの推進 | 【施策 1-5】 低所得者福祉の充実 |
| 【施策 1-3】 健康でいきいきとした高齢社会の推進 | 【施策 1-6】 福祉を支える人材の確保と育成 |

政策2 学びの充実とスポーツの振興により、生きる力と豊かな心を育みます
【教育文化】

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 【施策 2-1】 横手を愛する心と生きる力を育む学校教育の充実 | 【施策 2-4】 活力ある地域と心豊かな人を創る生涯学習の推進 |
| 【施策 2-2】 安全で安心して学べる教育環境の整備 | 【施策 2-5】 よこての伝統文化の継承と再発見 |
| 【施策 2-3】 元気なまちを築く生涯スポーツの促進 | |

政策3 豊かな自然環境を守り、安心して暮らすことのできるまちづくりを進めます
【生活環境】

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 【施策 3-1】 安心して暮らすことのできるまちづくりの推進 | 【施策 3-3】 災害に強いまちづくりの推進 |
| 【施策 3-2】 美しい自然環境と快適な生活環境の保全 | 【施策 3-4】 循環型社会の一層の推進 |
| | 【施策 3-5】 エネルギーの地産地消の推進 |

政策4 魅力ある地域資源を活用し、人を呼び、仕事を生み出す産業の振興を図ります
【産業振興】

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 【施策 4-1】 魅力ある農林業の振興 | 【施策 4-4】 観光・物産資源の発掘と発信 |
| 【施策 4-2】 活気ある商業の振興 | 【施策 4-5】 企業誘致の推進、企業留置と雇用対策 |
| 【施策 4-3】 活力ある工業の振興 | |

政策5 暮らしを支える都市基盤を強化し、便利で快適なまちづくりを進めます
【建設交通】

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 【施策 5-1】 雪国の快適な暮らしの実現 | 【施策 5-5】 安全で安定した水道水の供給と生活排水の適正処理 |
| 【施策 5-2】 快適な移動空間の実現 | 【施策 5-6】 市民がくつろげる公共空間の整備 |
| 【施策 5-3】 市民が利用しやすい公共交通の充実 | |
| 【施策 5-4】 地域拠点整備による市街地の活性化 | |

政策6 やさしさと笑顔があふれる市民が主役の地域づくりを進めます
【市民協働】

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 【施策 6-1】 市民の主体的な活動の支援と地域づくり活動の充実 | 【施策 6-3】 情報を共有する環境の整備 |
| 【施策 6-2】 男女が尊重し合う社会づくり | 【施策 6-4】 市内外との交流連携の推進 |

政策7 横手を思い、市民の思いを実現させる創造的な行政経営を進めます
【行政経営】

- | |
|---------------------------------|
| 【施策 7-1】 市民ニーズに対応した成果重視の行政運営の確立 |
| 【施策 7-2】 財源確保と効率的・効果的な財政運営の推進 |
| 【施策 7-3】 戦略的・計画的な人材育成と能力開発の充実 |

目 次

1. はじめに	2
2. 地方創生に向けた平成30年度の重点施策について	5
(1) 日本一の複合農業産地を目指して	5
(2) 「横手市マンガ活用構想」について	7
(3) 地域づくりの方向性について	9
3. 平成30年度予算案について	10
4. 平成30年度の主要事業等について	13
(1) みんな元気でいきいきと暮らせるまちづくり【健康福祉】	13
(2) 楽しく学び郷土愛あふれるまちづくり【教育文化】.....	17
(3) 美しい自然と豊かな暮らしを引き継ぐまちづくり【生活環境】	19
(4) 地域資源をいかした活力ある産業のまちづくり【産業振興】	20
(5) 安全で快適な住みよいまちづくり【建設交通】	24
(6) みんなの知恵を持ちよりみんなが輝くまちづくり【市民協働】	28
(7) 計画実現のために【行政経営】.....	29
5. 補正予算について	31
6. おわりに	31
※事業等の進捗状況編	33
※行政一般報告編	45

平成30年3月横手市議会定例会の開会にあたり、市政運営に関する基本方針と平成30年度予算案についてご説明申し上げますので、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. はじめに

雪の降り始めが例年より早かった今季の冬の横手市は、2月25日現在の累積降雪量が平年の1.5倍以上の1,058センチメートルに達するなど、4年ぶりの大雪に見舞われました。降雪状況を踏まえ市では、2月13日に大雪災害対策部を設置し、幹線道路や通学路等の排雪を行ったほか、市民の皆様への注意喚起、雪下ろし時に活用する安全器具無料貸し出しなど事故防止対策を講じてまいりましたが、残念ながら、雪下ろしや除雪作業中の死傷事故も発生しております。

お亡くなりになられた方に哀悼の意を表するとともに、ご遺族の皆様には心よりお悔やみを申し上げます。また、負傷された皆様や家屋等が被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

なお、今シーズンの除排雪出動回数が例年を大きく上回っていることに加え、2月中旬以降も気温が低く、降雪量の多い期間が続くことが予想されたことから、2月13日付で3億円を追加補正する

専決処分をさせていただきました。

今後、雪解けのシーズンを迎えますが、雪崩や落雪、果樹の枝折れ等の農業被害も想定されることから、引き続き雪害対策に万全を期してまいります。

さて、市政運営 2 期目の実質初年度となる平成 30 年度につきましては、これまで展開してきた様々な施策や企画について更に強力に推進することはもちろんのこと、公共施設の適正配置を念頭に置きながら、新たな政策理念として掲げる“にぎわいの創出”の早期実現を図るべく、J R 横手駅東口エリアの在り方の検討や地域局庁舎の建設等に着手する方針であります。

J R 横手駅東口エリアにつきましては現在、老朽化した建物や空きビルが目立つ状況となっており、隣接する集客・商業施設との相乗効果も勘案しながら、新たな再開発の方向性などについて、地域の皆様とともに検討することといたしました。地元関係者の皆様ににぎわい復活にかける思いを十二分に受け止めつつ、市の玄関口として相応しいまちづくりの在り方について今後、地域の皆様と協議してまいりたいと考えております。

十文字地域局庁舎につきましては、生涯学習や健診機能を併せ持つ多目的総合施設として整備することとし、オープン以来、多くの皆様に利用され愛されている道の駅十文字についても、交流・休憩

スペースの機能回復と快適な施設利用を目指し、リニューアル工事に着手することとしております。なお、十文字地域局周辺エリアの在り方については、市民の皆様、議会の皆様とも協議・検討を重ね、今後、具体的な再編案を提示してまいります。

また、雄物川地域局庁舎につきましては、保健センターや図書館等との連携・複合効果の向上を図るべく、現在の敷地内に建設することとしております。

加えて、地域のにぎわい創出や課題解決に向けた取り組みを強力に支援するため、これまでの「元気の出る地域づくり事業」を再編し、新たな助成制度を創設するほか、集落施設の利便性を高める補助制度等についても拡充することといたしました。

私は、施策ごとの評価を着実に実行することで更なる事業の選択と集中を進め、必要な財源を確保しながら、市の活力を育む“にぎわいの創出”を図ってまいりたい所存であります。

日本一の複合産地を目指す農業創生大学事業等の農業戦略や、世界への扉を開く「横手市マンガ活用構想」など、市の将来を見据えた様々な施策を積極的に展開するとともに、地域の貴重な資源の魅力を最大限活用し、市の豊かな未来の実現に邁進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

2. 地方創生に向けた平成30年度の重点施策について

(1) 日本一の複合農業産地を目指して

市ではこれまで、J A秋田ふるさとと「園芸作物振興に関する連携協定」を締結するなど、複合産地化を促進する環境整備にも力を注いでまいりました。新年度につきましては、農業創生大学事業に集中的に取り組む専門の部署を新たに設置するなど、複合産地化を更に加速させる様々な施策を展開してまいります。

県においては現在、菌床しいたけを最重点振興品目として位置づけ、東京都中央卸売市場における「年間販売量」「販売額」「販売単価」の三冠王獲得に向け、生産規模拡大への支援と販売強化に取り組んでいくこととしております。菌床しいたけの出荷量が県内第1位である当市においても、複合産地化を進めるための最重要品目の一つと位置づけており、生産量の大幅増を図るべく、県と歩調を合わせながら積極的に推進してまいります。

同じく県内一の生産量を誇る果樹につきましても、産地維持と更なる体質強化を目指し、認定農業者以外の皆様も対象とした、作業省力化のための機械や技術導入を支援する果樹産地体質強化推進事業に新たに取り組んでまいります。

平成29年産米につきましては、集落一体となった一斉防除活動や無人ヘリの活用が徹底されるなど、農業者の皆様のご努力により、

前年より一等米比率が大幅に向上いたしました。

一方、30年産米からは、需要に応じた米生産へ転換するため、産地間競争が一層、激しさを増すものと考えております。

このようなことから市では、新年度より、米の更なる品質向上を目指し、産業用ドローンの導入及びほ場整備に併せて実施される地力増進作物への助成を進めていくことといたしました。今後も、横手産米の評価が上がり、農業者の皆様様の所得向上が図られるよう支援を継続してまいります。

ホップにつきましては、これまで「キリン株式会社」と進めてまいりました地域活性化に向けた取り組みを更に発展させるため、「横手のホップ」ステップアップ事業を実施いたします。ホップ棚や高所作業車の修繕費用などに対する助成制度を創設するほか、栽培技術向上のための支援などを行い、生産量の維持と生産者の経営安定化を図ってまいります。

なお、この度、同社より、ホップ栽培とホップを軸とした地域活性化等に関する連携協定を当市と締結したい旨、申し入れがございました。同社が自治体と結ぶ全国初の協定となり、市の様々な分野への波及効果が期待されることから、新年度早々の調印を目指し現在、生産者の皆様と協定について意見交換を行い、準備を進めているところであります。

この協定締結を最大限活用し、ホップをキーワードとした様々な企画が全国に発信されることで、地域価値の創造に繋がることを大いに期待しております。

(2)「横手市マンガ活用構想」について

市ではこの度、秋田県未来づくり協働プログラム横手市プロジェクトの明確化を図り、プロジェクト終了後も、マンガを活用したまちづくりに取り組むための指針として、「横手市マンガ活用構想」を策定いたしました。構想においては、「マンガでえがく ひと・まちよこて」をコンセプトに、増田まんが美術館のある横手市だからこそ可能な魅力的な施策や、原画活用方法などについて体系的に提示しております。

具体的には、三つの基本目標を掲げており、第1は「マンガ原画を活用した特色ある美術館運営」としております。平成30年度は、翌31年4月にリニューアルオープンするまんが美術館の開館に向け、全国からお客様を迎えるに相応しい美術館づくりを進めるとともに、専門員の配置など運営体制の強化も図ってまいります。

第2の基本目標は「地域と連携した賑わい・経済効果の創出」であります。内蔵を利用した企画展の開催や更なる誘客増を図るための調査を実施するなど、マンガを活用したまちづくりを通し、市内

全域の様々な分野に広く効果が及ぶよう、PR戦略を整え実践してまいります。

第3については「マンガの魅力を活用した子どもの教育、豊かな学びの提供」としており、漫画家や編集者の皆様が市内各所においてワークショップなどを行うことで、子どもから大人まで気軽に参加できる環境を整えてまいります。

なお、現在、進捗中の増田まんが美術館大規模改修工事につきましては、3月20日には建築・機械設備工事が完了する予定であり、展示工事については、新年度から本格工事に着手することとしております。外装・外構等を中心とした長寿命化工事と合わせ、11月末には全工事完了の見込みであります。

私は、この構想を通して、まんが美術館に、そして横手市に、世界の皆様が来てみたいと思っただけけるよう、様々な取り組みを積極的に展開してまいる所存であります。世界各国から訪れる多くの皆様と日常的に触れ合う環境が創出されることで、子どもたちに新たな自信と誇りが生まれ、ひいては、郷土への愛着をもって、当市に住み続けていただくことに繋がるものと強く信じております。

新年度につきましては、構想の具現化を図る戦略的な実施計画を策定するとともに、収蔵原画の展示作業等に着手するなど、平成31年度のリニューアルオープンに向け、万全を期してまいります。

(3) 地域づくりの方向性について

新たな地域づくりの方向性につきましては、公民館等の範囲を基準に組織されている地区交流センターや地区会議などの地域づくり組織が、地域の将来を見据えながら地域課題などに主体的に取り組む組織体を“地域運営組織”と位置付け、今後、その組織の育成を図り、市民の皆様が安心して暮らし続けることができる地域の実現を目指してまいります。

平成30年3月をもって廃止することといたしました「地域づくり協議会」の委員の皆様には、これまで地域活性化のために献身的にご尽力いただきました。改めて心から感謝申し上げますとともに、今後も、地域づくりに関する幅広い知識と経験、スキルや人脈を活かし、地域における中心的な役割を担っていただけますようお願いいたします。

また、これまで各地域づくり協議会の企画・立案により実施されてまいりました「元気の出る地域づくり事業」につきましては、既存事業への移行や補助制度の新設などにより対応してまいります。併せて、「地区会議ハード事業」や「集会施設建築事業費補助金」の拡充、地域コミュニティの基礎となる町内会活動を支援する制度の新設などにより、地域住民の皆様が主体的に取り組むまちづくりや、地域課題の解決を図るための活動を後押ししてまいります。

地区交流センター事業につきましては、地域運営組織の体制が整ったところから順次、展開することとしており、平成30年4月からは、新たに2地区で実施される予定です。今後も、既に事業着手されている14センターと併せて、生涯学習事業や地域活性化、身近な地域課題の解決に向けた取り組みを支援してまいります。

3. 平成30年度予算案について

平成30年度の一般会計予算総額は538億2,000万円となり、前年度と比較して40億1,400万円、率にして8.1パーセント増の積極型予算としております。

本予算案は、当市が抱える課題の早期解決を図るべく、重点事項として5項目を掲げ、「横手市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と合わせ、他の施策に優先して編成したものであります。

第1の重点事項「雇用があり、住みたい・住み続けたいと思える魅力あふれるまちの実現」につきましては、主に農業政策分野に力点を置き、よこて農業創生大学事業や秋田のしいたけ販売三冠王獲得事業等の充実を図るとともに、新規事業として6事業を創設することとしております。

第2の重点事項と位置づけました「若い世代が、結婚や子育てに希望を持てるまちの実現」については、安全安心な子育て環境の整

備を更に進めるべく、保育所の防犯強化対策を後押しするほか、学童保育の一層の充実を図ってまいります。また、若者の出会いを促し、結婚生活を応援する施策についても、引き続き取り組むこととしております。

昨年の大雨災害等により、新たな重点項目といたしました「災害に強い、安心して暮らすことのできるまちの実現」につきましては、比較的大規模な浸水被害に見舞われた5箇所の雨水排水系統及び流量についての調査費を計上するとともに、避難場所として利用される小中学校への公衆無線LANの整備や、災害復旧を強力に推進する事業など計11事業を実施することで、喫緊の課題の早期解決を図ってまいります。

社会インフラの着実な整備により、市民の皆様の利便性向上等を目指す「ハード・ソフト両面の社会基盤強化で、人にやさしい快適なまちの実現」においては、引き続き、スマートインターチェンジ設置事業や生活インフラ整備加速化事業など計5事業に取り組んでまいります。

「よこての特色を生かし、市民・民間と手をたずさえて、地域活力を共に創るまちの実現」につきましては、これまでの地域づくり等に関する助成制度に加え、新たな地域資源の活用を図る事業など計25事業を展開してまいります。様々な分野において、市民の皆

様や団体の皆様等とともにまちづくりを進めることで、新たなにぎわいの創出を図り、幸せな地域社会の実現を目指す所存であります。

なお、予算編成重点5項目に関する事業は計63事業となり、予算額は、一般会計予算総額の約10%を占める49億3,210万円としております。

次に、歳入の主な内容について申し上げます。

市税では、比較的堅調な個人市民税の伸びを反映し、前年度比0.9パーセント増の81億8,353万円と見込んでおります。

地方交付税につきましては、合併算定替特例の終了3年目の影響を考慮し、前年度比2.4パーセント減の192億2,000万円としており、地方交付税の振替措置として発行される臨時財政対策債については、前年度比6.2%減の14億3,100万円と見込んでおります。

寄附金については、昨年秋以降、大幅な伸びを見せている「ふるさと納税寄附金」を考慮し、前年度比351.6%増の7億円を見込んでおります。

市債につきましては、大型建設事業の増加に伴い、前年度比40.4パーセント増の68億2,620万円としております。

なお、平成29年度末における一般会計の市債残高は664億5,900万円、基金残高については財政調整、減債、特定目的の

各基金合計で194億5,800万円と見込んでおります。

特別会計におきましては、障害者支援施設の指定管理者制度導入と、集落排水事業の下水道事業会計への統合に伴ってそれぞれ廃止したほか、9つの財産区等特別会計も一本化し、全部で8会計に整理統合いたしました。国民健康保険特別会計など8特別会計の総額は、前年度と比較して11.3パーセント減の253億6,402万円となっており、また、病院事業、水道事業並びに下水道事業からなる企業会計は、前年度と比較して2.2パーセント増の169億7,170万円を計上しております。

以上の結果、平成30年度の全会計予算総額は、前年度比1.2パーセント増の961億5,572万円となっております。

4. 平成30年度の主要事業等について

(1) みんな元気でいきいきと暮らせるまちづくり【健康福祉】

県と共同で実施している「すこやか子育て支援事業」につきましては、保育料助成世帯の対象範囲を拡大するほか、第3子以降が生まれた世帯の皆様に、一時預かり等の利用料に関する新規助成を行います。

保育士等の処遇改善の取り組みといたしましては、公立保育所の非常勤保育士や放課後児童健全育成事業の支援員等を対象に、報酬

単価の引き上げを実施し、また、保育所等の防犯強化対策に関しましては、認定こども園3施設に補助金を交付するほか、全ての公立保育所に防犯カメラを設置し、入所児童の安全確保に努めます。

健康推進につきましては、健康寿命延伸を図るための取り組みとして、糖尿病重症化予防事業を新たに実施いたします。また、健康の駅推進事業におきましては、運動を切り口とした健康増進プログラムを実施し、市民の皆様と行政との協働による健康づくりを継続してまいります。

がん患者の皆様への支援といたしましては、医療技術の進歩により、治療を受けながら社会生活を送る方々が多くなってきている現状を踏まえ、医療用ウィッグや乳房補正具の購入費助成制度を創設いたします。

また、自殺対策基本法が改正されたことに伴い、誰ひとりとして自殺に追い込まれることのない地域社会を目指し、「横手市自殺対策計画（仮称）」を策定いたします。

高齢者福祉につきましては、高齢者の皆様の生活を支援するための新たな指針となる「第7期横手市介護保険事業計画・高齢者福祉計画」が、平成30年度からスタートいたします。健康・医療・介護が連携したシステムを構築することにより、高齢者の皆様一人ひとりに最適なサービスを提供する体制を整え、介護状況の重度化を

防ぎ、健康寿命を延ばすことで、高齢者の皆様が自立した生活を送ることができるよう介護保険事業の機能強化を図ってまいります。

平成30年度につきましては、第7期計画の理解を深めていただくため、関係団体や地域組織の皆様にご説明申し上げるとともに、平成31年度からの新たな事業展開を見据え、意見交換会を開催してまいります。

なお、第7期計画の介護給付費でございますが、高齢者人口の増加に伴う要介護認定者数やサービス利用者数の増加予測に加え、介護報酬のプラス改定により、第6期計画と比較して約10パーセント程度、上昇する見込みとなっております。そのため、介護保険料の基準月額が9.5パーセント増の6,257円といたしましたが、所得水準に応じた保険料設定につきましては、これまでどおり継続してまいります。

障がい福祉につきましては、サービスの提供体制に関する成果目標とサービス種別ごとの見込量を定めた「第5期横手市障がい福祉計画」及び「第1期横手市障がい児福祉計画」が、平成30年度からスタートいたします。計画では、従来のサービスに加え、新たに創設された、就労先や居宅等への訪問支援サービスなどの利用も見込んでおり、障がい者の皆様がスムーズに地域生活へ移行できるよう、引き続き市内のサービス事業所等と連携し、より充実した支援

体制の構築を目指してまいります。

また、横手市障害者支援施設「大和更生園」「ユーホップハウス」及び横手市グループホーム「やがしわ」「かみたむら」につきましては、平成30年4月から指定管理者により施設が運営されることとなります。民間事業者のノウハウを活かし、きめ細やかなサービスが提供いただけるものと期待しております。

生活困窮者自立支援対策といたしましては、従来の自立相談事業に加え、新たに家計相談事業に取り組みます。経済的に困りの市民の皆様に、家計支援計画の作成等を通じた伴走型の支援を行うことにより、生活保護制度に頼ることなく自立的な生活が継続できるよう、セーフティネットの拡充を図ってまいります。

市立病院の経営につきましては、平成30年度診療報酬・介護報酬改定率が微増となる一方で、薬価部分のマイナスや、「働き方改革の推進」による勤務医の負担軽減のための環境改善など、新たに取組むべき課題もあり、今後、より一層、経営努力が求められることとなります。

横手病院では、患者さん中心の安心・安全な医療の提供と、質の高い急性期医療を担いながら、患者さんの状態に応じた入退院支援や地域医療連携を更に進めてまいります。

大森病院においては、家庭医専門研修プログラムによる医師の確

保や糖尿病専門医の招聘により、「地域密着型病院」として患者さんに寄り添った病院づくりを目指すとともに、収入増に繋がる新たな診療行為を取り入れながら、訪問診療や通所リハビリなどの在宅療養支援機能の充実を図ってまいります。

(2) 楽しく学び郷土愛あふれるまちづくり【教育文化】

ホストタウン事業につきましては、これまで誘致活動を進めてまいりました、2020年東京オリンピックにおける「インドネシアバドミントン ナショナルチーム」の事前合宿は、残念ながら実現することができませんでした。しかしながら、ホストタウン事業の目的であるグローバル化の推進やスポーツを通じた地域活性化、観光振興等に継続的に取り組むことが重要であることから、オリンピック参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流の契機とすべく、今後も、インドネシアとの交流を継続することとしております。

平成30年度は、同国大手企業のバドミントン ジュニアクラブチームを招待し、市内中高生との交流事業を実施するとともに、当該企業関係者を招聘し経済交流の糸口を見出したいと考えており、本市在住のインドネシア出身者や同国にグループ会社などを持つ市内企業、県並びに県バドミントン協会とも連携を強化してまいります。

す。

横手体育館と横手武道館については、利用者の皆様が気軽にスポーツに親しみ、健康増進に繋げられるよう、両施設の利便性向上を目的に、平成30年7月から指定管理者制度を導入してまいります。

「横手市スポーツ推進計画」につきましては、平成30年度を初年度とし、スポーツが持つ多様な効果を活かしながら、「元気なまちづくり」と「地域の活性化」の実現を目指してまいります。

平成28年度より策定に取り組んでおります「歴史的風致維持向上計画」につきましては、大森地域の重要文化財である「波宇志別神社神楽殿」などの歴史的建造物と、重要無形民俗文化財である「保呂羽山の霜月神楽」や県指定無形民俗文化財の「八沢木獅子舞」など、建造物と一体となった地域の皆様の活動をはじめとする市内9箇所が、国との事前協議において、歴史的風致の要件を満たすものと理解していただいたところであります。

当市には、増田地域の重要伝統的建造物群保存地区や旧武家町で当時の町割りが残る羽黒町・上内町など歴史上価値の高い建造物と、その周辺市街地で行われる神輿や山車の行列、また、江戸時代から続く「送り盆」や「かまくら」「鹿島」などの伝統行事が、市民の皆様によって受け継がれております。

新年度については、歴史的風致として理解していただいた、これ

らの地域資源を計画に盛り込み、「横手市歴史的風致維持向上協議会」から意見をいただくとともに、市民の皆様への周知を図り、年度内の計画認定を目指してまいります。

(3)美しい自然と豊かな暮らしを引き継ぐまちづくり【生活環境】

防災・減災への取り組みといたしましては、この3月に配布する改訂版防災マップを活用し、幅広い年代の方への学習、啓発機会の拡大を図るとともに、地域性を考慮した自治会等の単位における地区防災対策を進め、更なる地域防災力の向上を目指してまいります。

増田・十文字統合分署につきましては、平成30年度中の完成を予定しており、雄物川・大森大雄統合分署については、土地の取得と造成工事に着手し、あわせて消防職員や消防車両の効果的な配置を推進してまいります。

消防団につきましては、地域の実情を考慮した有効な活動ができる体制を構築するため、消防団組織の検討委員会において協議を進めており、平成30年度については、「第1次消防団改革計画」に基づく雄物川地域の施設統合事業を完了させるほか、新たに組織の統合についても検討を進め、消防団の施設や装備の充実を図ってまいります。

加えて、現在、市内各地域に設置されている8消防団の統合を目

指し、各消防団との協議を本格的に進めてまいります。

また、近年、頻発する地震や大雨等の自然災害を踏まえ、災害発生時の廃棄物処理手順等を定める「横手市災害廃棄物処理計画」を策定いたします。

策定にあたりましては、国の「災害廃棄物対策指針」や「横手市地域防災計画」等を踏まえながら、生活環境と公衆衛生の保全を重視したうえで、具体的な対応方法を網羅した実効性のある計画といたします。市の処理能力を超えるような大規模災害に関しましては、県が策定する「秋田県災害廃棄物処理計画」に基づき、広域的連携体制のもとでの災害廃棄物処理手順を定めてまいります。

(4)地域資源をいかした活力ある産業のまちづくり【産業振興】

地域農業の担い手対策といたしましては、新規就農者の確保を目指した新たな取り組みとして、人材の発掘及び当市における就農・定着を支援する「横手で農業を！スタートアップ支援事業」を実施いたします。併せて、設立間もない集落型農業法人の経営安定化を支援することにより、地域の中核的な担い手となる経営体の育成に努めてまいります。

ほ場整備につきましては、6地区915ヘクタールの事業に着手しており、平成29年度は232ヘクタールの区画整理を行ってお

ります。平成30年度につきましては、更に245ヘクタールの区画整理を行う予定であり、区画拡大や農地集積化などによる生産性向上等を図るべく取り組みを進めてまいります。

なお、多面的機能支払交付金制度を活用して現在、101の組織が1万1,883ヘクタールの農地において、地域資源の保全活動に取り組んでおります。今後は、広域組織化などにより更なる面積拡大と組織強化を図ってまいります。

林業振興につきましては、夏の大雨で被災した林道の復旧等により、路網の整備・再生に努め、林業の活性化と持続的な森林整備の推進を図ってまいります。

有害鳥獣被害対策につきましては、ツキノワグマの目撃情報が集中している地域周辺の安全確保と捕獲活動の効率化を図るとともに、出合い頭による人身被害の発生を防止するため、横手公園散策路周辺の藪払いなどを行ってまいります。

道の駅十文字については、直売所やバックヤード面積の拡大等により直売機能を充実させるほか、利用者の皆様の更なる利便性向上を図るべく、トイレ改修や出入り口の風よけ対策なども実施いたします。

総事業費は約2億2千万円を見込んでおり、直売所等地域振興施設の改修については市が、トイレ等道路管理施設の改修については

国土交通省が負担することとなりました。国土交通省が直轄事業として行う駐車場配置のリニューアル工事も合わせ、平成31年3月の完成を目指してまいります。

商業の振興につきましては、市内商工団体の皆様の活動や各種イベント等を積極支援するとともに、市内事業者の育成に向けた取り組みや相談サポート体制を継続し、女性やシニア層など潜在的起業家の掘り起こしにも力を入れてまいります。

工業の振興に関しましては、昨年7月施行の「地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律」（通称：地域未来投資促進法）に基づき、当市を含む関係市町村と県が策定した「成長ものづくり分野における基本計画」が先般、国の同意を得られ、その後、市内企業が提出いたしました「モーターコイル製造拠点創出事業に係る地域経済牽引事業計画」が、県により承認されたところであります。市といたしましては、地域経済にもたらす波及効果に大いに期待しており、この事業計画が着実に推進されるよう、県と連携し強力に支援してまいります。

また、この2月には、企業と求職者とのマッチングや人材確保を促進するため、秋田労働局と雇用対策協定を締結いたしました。今後は協定をもとに、県やハローワークとの連携を密にしながら、「就職面接会」や「企業ガイダンス」等の就職支援対策を強化するとと

もに、就職情報サイト「横手ジョブナビ」の効果的な活用等により、市内に定住する若者の増加を図ってまいります。

誘客促進対策といたしましては、新たな観光物産資源の発掘と効果的な発信により、地域への経済波及効果を生み出すため、“観光地域づくり”の舵取り役を担う「横手市観光推進機構」との連携をより一層、強化してまいります。

地域が持つ固有の歴史や文化資源、豊かな醗酵食文化など、新たなブランド化や体験型旅行商品造成の可能性を持つ観光素材の発掘と有効活用を目指すとともに、増田エリアへの更なる誘客策を積極展開し、併せて市内各地域への回遊に結びつけることで、市民の皆様が誇りを持ち、地域の皆様と観光関連団体、事業者の皆様が協力し繋がり合う「まちづくり」を実現してまいります。

インバウンド対策につきましては、台湾、中国などへの県との合同トップセールスに参加しながら、市内の企業とも連携し、独自のチャンネルを活かして誘客に力を注いでまいります。

横手製品の販路拡大事業については、引き続き首都圏、仙台圏を中心に積極展開を図ることとし、「株式会社九州屋」や「株式会社サカガミ」等の首都圏店舗を活用しながら、売れる商品づくりや6次産業化の推進に貢献してまいります。

平成30年度に3年目を迎えるタイ、マカオへの輸出支援につき

ましては、昨年、初めての出展となりました“ジャパンフェア”への参加を継続し、横手産品の常時取引に繋げてまいります。また、シンガポール、カンボジアなど新たな国への輸出可能性を探る市場調査を行い、市内事業者のフェア出展などを強力に後押ししてまいります。

市が誘致いたしました「株式会社プレステージ・インターナショナル」では、平成30年5月に、横手第二工業団地において延べ床面積5千平方メートルの事務所建設工事に着手し、平成31年4月には本格的に事業を開始いたします。同社による雇用者数は、新事務所完成後の3年間で500人にまで拡大する予定であることから、市といたしましても、引き続き雇用確保に向けた協力など全力で支援するとともに、今後も、地理的・気候的な制約が少なく、更なる成長が望めるIT・ソフトウェア関連産業の誘致活動に努め、若者の地元定着を図ってまいります。

(5)安全で快適な住みよいまちづくり【建設交通】

道路整備につきましては、交付金事業として幹線道路の改良及び歩道整備・防雪柵の設置など3路線、幹線道路の舗装補修11路線、橋梁点検など129か所、橋梁補修4か所などを予定しております。くらしのみちづくり事業では、地域内幹線道路や生活道路の整備と

して12路線の改良や舗装補修を予定しており、引き続き安全安心な道路環境づくりに努めてまいります。

また、市民生活に密着したインフラ施設を集中的に整備する「生活インフラ整備加速化事業」につきましては、平成29年度と同様、老朽化が進む生活道路を中心に舗装補修工事や消融雪施設工事、地域のきめ細かな要望に対応した工事などについて計画的に進めてまいります。

横手北スマートインターチェンジについては、平成30年度末の供用開始を目指し事業を進めております。昨年12月には、高速道路の本線迂回路切替え工事が完了するなど、事業は順調に進捗しており、今後も引き続き、関係機関との綿密な連携を図りながら、インターの早期完成を目指してまいります。

増田地区のまちづくりにつきましては現在、重伝建地区の本町通りにおいて、無電柱化のための共同溝設置工事を実施しております。新年度には、中七日町通りにおいて工事が本格化することから、引き続き関係者の皆様と調整を密にし事業を進めてまいります。

平成29年度より策定作業を進めております「横手市都市計画マスタープラン」につきましては、安全で快適な住みよいまちづくりを進めるための基本方針について検討しているところであり、平成30年度については、新マスタープランを推進するための「立地適

正化計画」の策定にも取り組んでまいります。

この計画は、社会情勢が大きく変化し人口減少が進行する中、中心市街地における都市機能を確保するとともに、中心市街地と地域拠点とが公共交通ネットワークでスムーズに繋がる“暮らしやすく持続可能なまちづくり”の実現を目指すものであり、平成30年度中の策定を目指してまいります。

なお、JR横手駅東口エリアにつきまして、私は、横手駅前に活気を取り戻すべく、先の市長選挙において、「横手駅東口開発促進」を公約の一つに掲げさせていただきました。去る1月25日には、「横手駅前東口市街地再開発事業発起人会（仮称）」より再開発に関する要望書が提出され、街の再生を願う地元関係者の皆様の機運が十分に高まっていることを、強く実感しているところであります。まずは、再開発の必要性や可能性、また、是非そのものについて検討する専門部署を設置し、様々な角度から検討を重ねてまいります。

市営住宅等への指定管理者制度の導入につきましては、住宅管理に関する豊富なノウハウを持つ民間事業者と、市との協働による住宅政策を推進することにより、適正な住宅管理と利用者の皆様への質の高いサービス提供を目指すものであります。

今後も、市営住宅等に入居されている皆様や関係者の皆様の理解をいただきながら、平成30年度には指定管理者の募集、選定を行

い、平成31年度からの指定管理者制度導入を目指してまいります。

水道事業につきましては、管路耐震化工事として、平鹿石の塔地区、雄物川中村地区、大雄耳取地区など9カ所と、未普及地解消工事として、平成29年度に引き続き、雄物川大巻地区を整備いたします。そのほか、国、県、市が実施する建設事業などに伴い、支障となる水道配水管の移設工事を21カ所で実施する予定であります。また、横手市水道事業計画変更に基づき、工事中の成瀬ダムを新たな水源とする「雄物川浄水場（仮称）」の建設について検討してまいります。

公共下水道事業につきましては、横手市生活排水処理構想に基づき、未普及地域の早期整備及び事業の最適化を目指した処理施設統廃合に取り組んでまいります。

公共下水道管渠築造工事といたしましては、横手地域の三枚橋、伏山・六ノ口、三本柳地区、平鹿地域の石成、馬鞍地区を継続して整備いたします。

農業集落排水施設については、大森地域の大森、十日町、本郷処理区の統合に向け、改築・更新計画の策定や関係機関との協議を進めてまいります。

また、軽微な交通事故を起こすなど車の運転に不安を覚える皆様に、自動車運転免許証の自主返納について前向きにご検討いただく

ため、市では、「横手市地域公共交通活性化協議会」において、運転免許証の自主返納を促す支援制度を実施することといたしました。

具体的には、実際に運転免許証を返納された皆様に、市内路線バスやタクシー等にご利用できる割引券を支給するものであります。返納に関する相談窓口や手続き方法、県の支援制度等についても広く周知することで、移動手段の確保と交通事故の防止に繋げてまいりたいと考えております。

(6)みんなの知恵を持ちよりみんなが輝くまちづくり【市民協働】

十文字地域局庁舎につきましては、様々な活動に利用できる生涯学習スペースのほか、健診スペースや200人規模の会合が可能な多目的スペース、市民の皆様が利用できる展示コーナー、非常食や防災資機材の備蓄庫などを備えることとしております。

建設場所は、幸福会館西側にある市有地とし、同一エリア内の道の駅、よこて市商工会、JA秋田ふるさととも連携しながら、市民の皆様の利便性の向上、地域のにぎわいの創出を図ってまいります。

雄物川庁舎につきましては、行政・地域防災・市民交流機能を兼ね備えた地域拠点と位置づけ、保健センターの空きスペースも有効活用することとしております。

建設場所は図書館の駐車場付近を想定しており、子どもたちから

高齢者の皆様まで、誰もが利用しやすい施設を目指してまいります。

両庁舎とも、平成30年度に基本設計、実施設計などを行い、平成32年度には供用開始する予定としております。

(7)計画実現のために【行政経営】

公共温泉施設の民間譲渡につきましては、新たな事業者と2月15日に財産の譲与契約や土地の賃貸借契約、運営協定を締結いたしました。事業者は現在、従業員の採用に向けた手続きや業務の引き継ぎ等を行っており、4月からの運営を目指して準備を進めていると伺っております。市民の皆様のご大切な財産である温泉施設を引き継いでいただくことに感謝いたしますとともに、民間経営のノウハウを十分に発揮していただくことを期待しております。

市民の皆様におかれましては、行政から民間へと事業主体が変わることになりますが、地域の大切なシンボルであることに変わりはありませんので、これまで以上のご愛顧とお力添えをいただければ幸いに存じます。

また、現在、施設を運営しております第三セクター「株式会社 山内観光振興公社」並びに「株式会社 増田町物産流通センター」につきましては、3月末をもって解散する方向で最終調整を進めております。2月上旬には株主の皆様への全体説明会を開催し、施設譲

渡の正式決定と今後の見込み等についてご説明いたしました。株主の皆様には、第三セクター設立へのご賛同や今日までのご協力に改めて謝意をお伝えするとともに、最終的に多大なるご迷惑をおかけする結果となったことにつきまして再度、お詫び申し上げたところであります。なお、両第三セクターでは、3月末に開催する株主総会において、正式に解散を決議する予定としております。

増田町物産流通センターにつきましては、通常 of 清算が難しい状況であるため、市からの財政支援を実施いたしたく、今定例会に補正予算のお願いをしているところであります。第三セクター設立の経緯やこれまでの経営に対して、市の一定の責任を果たすための財政支援であることを何卒ご理解いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成30年度で3年目を迎える「横手市財産経営推進計画」につきましては、旧境町小学校や旧平鹿庁舎など、統廃合や老朽化により廃止となった12施設の解体を予定しております。今後も、平成28年度創設の「公共施設等総合管理推進基金」や合併特例債などの有効活用を念頭に、個別施設ごとの方向性を明確に定めながら、新たな“にぎわいの創出”に繋がる様々な施設の在り方について検討することで、計画の目的達成を図ってまいります。

5. 補正予算について

今議会に提案しております一般会計補正予算についてご説明申し上げます。

今回の補正は、災害査定結果による災害復旧事業費の減額、事業費の実績見込みによる減額及び歳出組替えのほか、国の補正予算第1号による増額などが主な内容となっております。

補正額は、24億4,160万円の減額で、補正後の歳入歳出予算総額は、530億1,190万円であります。主な増額事業を申し上げますと、

◎ 地籍調査事業	830万5千円
◎ 一般扶助費	4,492万円
◎ 病院事業費	2,079万4千円
◎ 農業生産基盤整備事業	1億9,057万4千円
◎ 温泉観光施設費	1億4,100万円

などであります。

6. おわりに

今議会に提案しております案件については、諮問案件9件、専決処分報告案件1件、同意案件24件、承認案件1件、条例の制定など条例関係20件、権利の放棄案件1件、指定管理関係3件、市道

路線の廃止認定案件 2 件、平成 29 年度一般会計補正予算案など補正議案 11 件、平成 30 年度予算の繰り入れ案件 2 件、平成 30 年度予算案 12 件の合計 86 件であります。

以上、よろしくご審議くださいますようお願い申し上げまして、施政方針といたします。

事業等の進捗状況編

～ 平成29年度事業等について ～

目 次

平成29年度事業等の進捗状況について.....	35
（1）ふるさと納税について.....	35
（2）「教育・保育施設」整備及び「公立保育所」民営化について.....	36
（3）産地パワーアップ事業について.....	36
（4）よこて農業創生大学事業について.....	37
（5）雇用対策協定の締結について.....	37
（6）いぶりがっこのGI申請について.....	38
（7）自然災害への対応状況について.....	39
（8）上下水道事業について.....	40
（9）学校統合及び学校施設の整備について.....	41
（10）消防分署統合事業について.....	42
（11）消防団の組織改革等について.....	42

平成29年度事業等の進捗状況について

(1)ふるさと納税について

平成29年度のふるさと納税につきましては、年度末までに寄附金額5億円に達する勢いで推移しており、平成28年度実績と比較いたしますと5倍近い金額になるものと見込んでおります。

特に、12月は1か月間で約19,500件、金額にして2億6000万円を超えるお申し込みがあり、ふるさと納税制度を通じてたくさんの方々に横手の魅力をお伝えすることができたものと認識しております。

平成29年度は、9月からインターネット上の窓口増設や業務一括代行委託事業者との連携によるプロモーション及び各種広告展開のほか、返礼品の拡充や新規事業者の開拓などに積極的に取り組んでまいりました。さらには、返礼品の質の高さによるリピーターの増加や口コミ効果などが相乗効果を生み、飛躍的な増加につながっているものと捉えております。

今後も、ふるさと納税制度を積極的に活用しながら、地域事業者の育成や産業の活性化を図るとともに、ふるさと納税をきっかけに生まれたつながりを大切にし、横手ファンの更なる拡大と当市の知名度向上に結び付くよう取り組んでまいります。

(2)「教育・保育施設」整備及び「公立保育所」民営化について

民間の保育所等の教育・保育施設の整備及び公立保育所の民営化につきましては、「横手市教育・保育施設整備計画及び公立保育所民営化計画」に基づき、着実に進めているところです。

平成32年度から民営化を予定しているたいゆう保育園につきましては、社会福祉法人旭保育園、同じく植田・睦合統合保育所につきましては、社会福祉法人一真会を、保育所を設置及び運営する法人として決定したところであり、今後、法人との協議および施設整備などを進めてまいります。

また、和光保育園の改築整備につきましては、間もなく工事が完了する予定であり、4月の開園に向けて準備が進められることとなります。

平成30年度は、認定こども園土屋幼稚園・保育園、認定こども園こひつじの改築整備に加え、平成33年度に民営化移行予定である川西保育所・十文字保育所の運営法人の決定などを予定しております。

(3)産地パワーアップ事業について

J A秋田ふるさとが、国の産地パワーアップ事業及び市補助金を活用して整備を進めておりました、ジュース加工所につきましては

昨年末に完成し、稼働を開始しております。

これまでより製造能力が増加したことに加え、食品安全リスクの低減措置により、対象品目であるりんご・ぶどう・トマトの規格外品の高付加価値化と販売強化が図られるものと期待しております。

(4)よこて農業創生大学事業について

「よこて農業創生大学事業」につきましては、6次産業化支援施設棟や管理・研修棟などの実施設計を行うとともに、旧大雄中学校校舎の一部とプールの解体工事及びグラウンドをほ場化するための整地工事を実施いたしました。

平成30年度は、これらの設計を基に、拠点施設の整備を進めてまいります。

また、農業の担い手を育成する農業経営者等育成事業につきましては、新規就農を目指す研修生6名の内、2名が平成30年度に就農するため、そのフォローアップを行うとともに、引き続き新規受入研修生も含めた農業経営者の育成に努めてまいります。

(5)雇用対策協定の締結について

雇用拡大に係る施策を効果的・一体的に実施し、市内経済の活性化と市民の皆様の暮らしの向上を図ることを目的として、2月に秋

田労働局と「横手市雇用対策協定」を締結いたしました。

協定では、具体的な取り組みとして、若年者と地元企業のマッチング支援、女性の活躍に向けた就労環境の整備と雇用拡大、生涯現役社会に向けた高年齢者の就労支援、福祉関係支援対象者への就労支援を実施することとしており、今後、関係各団体と連携しながら雇用対策を進めてまいります。

(6)いぶりがっこのGI申請について

いぶりがっこの本場であります当市におきましては、いぶりがっこを製造販売する個人、団体や販売事業者、行政関係機関など20を超える会員で構成される「横手市いぶりがっこ活性化協議会」を平成28年度に設立しております。本活性化協議会が加盟している「秋田県いぶりがっこ振興協議会」が進めている農産物や加工品の名称を、知的財産として国が保護する「地理的表示保護制度」、いわゆるGI取得につきましては、申請内容がまとまり、9月に国に対し申請を行ったところ です。現在、農林水産省において申請書類の確認が行われているところであり、その後、公示、第三者からの意見聴取、学識経験者の意見聴取を行い、審査、登録の手順で進んでいく予定となっております。

いぶりがっこというブランドを国が保証することで、他県の類似

品や粗悪品との差別化が図られるほか、知名度アップ、販路拡大、海外輸出なども期待されており、市といたしましても市内事業者のニーズ把握、品質向上および販路拡大に結び付く情報提供に努め、販売促進活動を引き続き支援してまいります。

さらに、G I 登録後の製造管理の確認方法、G I 登録以外の商品の販売支援につきましても、本活性化協議会を通じて検討してまいります。

(7) 自然災害への対応状況について

7月の大雨により被災した公共土木施設の復旧状況ではありますが、河川・道路の比較的小規模な被災箇所のうち、早急に機能確保や舗装復旧等が必要な区間・路線につきましては、市単独事業により12月中旬までに概ね対応しており、その他の箇所につきましても、雪解けを待って繰越事業により実施してまいります。

また、比較的大規模で、国庫負担を受け実施する災害復旧工事につきましては、全体の採択件数32件に対し、平成29年度分として約70%の国費の配分を受けており、現在までに道路11件、河川10件の工事を発注しております。

残りの工事につきましても、配分内の予算において可能な件数を、繰越事業により順次発注する予定となっており、河川においては平

成30年のかんがい期及び平成30年度末までを目標に、また道路においては降雪期までを目標に、復旧を完了する予定としております。

一方、災害関連事業により実施する寄木川の一部整備につきましては、災害分に加え、改良分に対し平成29年度約50%の国費の配分を受けており、雪解けとともに用地測量を実施し、関係者のご協力を得ながら用地買収を行った後、工事に着手する予定となっております。

今後も、被災箇所の早期復旧に向けて、着実な事業執行を図ってまいります。

(8)上下水道事業について

水道配水管整備事業につきましては、市内28カ所で実施し、1月末までに山内黒沢地区など17カ所が完成しております。

2月以降も施工している大雄桜森地区など8カ所につきましては、3月中旬までの完成予定であります。他の建設事業に伴って発注している増田地域など3カ所につきましては、繰り越して実施してまいります。

また、横手市水道事業計画の変更につきましては、将来的な社会情勢の変化をふまえ、効率的な水運用及び維持管理ができることに

重点を置き、原案を策定しております。今後は、パブリックコメント等で広くご意見を伺い、市民の皆様へ、安全で安心な水道水の供給が持続可能な計画として、年度内に完成する予定としております。

次に、公共下水道管渠築造工事につきましては、横手地域の伏山・六ノ口地区、平鹿地域の馬鞍地区が完成しております。また、横手地域の三本柳、三枚橋地区、平鹿地域の石成地区につきましては、年度内に完成する予定であり、引き続き水洗化率の向上に向け、啓発活動に努めてまいります。

(9)学校統合及び学校施設の整備について

山内中学校と横手南中学校の統合につきましては、昨年5月に準備委員会を立ち上げ、部活動やスクールバスの運行計画など様々な項目の調整を図るとともに、生徒の交流事業などにも取り組んでまいりました。生徒数が増加する横手南中学校におきましては、体育館や普通教室などの大規模改修工事により快適な教育環境の整備を図ったところであり、万全の態勢で統合できるよう準備を進めてまいります。

十文字地域小学校統合事業につきましては、建設用地の所有権移転登記および来年度の実施設計に向けた地質調査業務が完了したところであり、9月には、警察や国・県・市の道路管理者、学校、P

TAの代表等による「十文字地域統合小学校通学路等整備連絡会議」を開催し、想定される徒歩通学路の合同点検を実施しております。今後も引き続き危険箇所等の把握に努め、安全が確保されるよう迅速に対応してまいります。

増田中学校長寿命化改修事業につきましては、仮設校舎の建設および改修工事に向けた実施設計が完了し、平成30年度は、管理棟及び特別教室棟の改修工事を行う予定としております。今後も引き続き生徒の安全確保に努めながら、安心して快適な学校環境となるよう工事を進めてまいります。

(10)消防分署統合事業について

消防分署統合事業につきましては、事業実施中の増田・十文字統合分署に加え、雄物川・大森大雄分署の統合事業にも着手いたしました。

増田・十文字統合分署につきましては、建設地の取得と造成工事が完了し、雄物川・大森大雄統合分署につきましては、建設予定地の地質調査、測量・造成設計、基本設計が完了しております。

(11)消防団の組織改革等について

消防団につきましては、組織検討委員会での協議を進め、第1次

消防団改革計画に基づく施設・装備の整備に着手したところであり、また、消防団理事会においては、市内各地域に設置されている8消防団の統合を目指した協議を開始しております。

地域の実情に考慮した有効な活動ができる体制を構築すべく、引き続き組織改革に取り組んでいく所存であります。

行政一般報告編

～ 12月議会定例会以降の行事等について ～

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

目 次

(1) 第12回横手市民ステージ祭・平成29年度横手市交流美術展	48
(2) 父親の家庭教育参加促進事業	48
(3) 横手市冬休み子ども教室	48
(4) 第6回チャンピオンズカップ横手東北中学校新人バスケットボール大会	49
(5) 横手市民スキー大会	49
(6) 横手地域の「冬のイベント」について	50
(7) 第14回元祖さるはんない幻灯	51
(8) 第30回槻の木光のファンタジー	51
(9) おものがわイルミネーション	52
(10) 年末年始行事伝承会「むかしの行事を体験しよう」	52
(11) 第26回銀河系宇宙ほらふき決勝大会	52
(12) おおもりケヤキ並木イルミネーション	53
(13) 大森地域「ぼんでん発表会」	53
(14) 「交通死亡事故ゼロ3,000日達成」について	53
(15) 雪上イベントについて	54
(16) 第27回あきた十文字映画祭	54
(17) 十文字雪まつり2018	54
(18) 第12回いぶりんピック	55
(19) 大雄イルミネーション	55
(20) 2018大雄子どもフェスティバル	56
(21) 第2回及び第3回保育実践力向上研修会	56
(22) 平成29年度横手市認知症予防講演会	57
(23) 「中学生と高齢者の絆を深める取組提案」コンクール発表会	57
(24) 「横手市就職面接会・企業説明会」	58

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

(25) 出前かまくらについて.....	58
(26) 横手の雪まつりについて.....	59
(27) 来てたんせ・あきた 見てたんせ 横手・湯沢・羽後・東成瀬.....	59
(28) 首都圏、仙台圏における横手産品販路拡大事業について.....	59
(29) 後三年合戦シンポジウムの開催.....	60
(30) 横手市創作子ども歌舞伎「康楽館演劇祭」上演交流.....	60
(31) 雄物川郷土資料館第4回特別展「ひな人形展」.....	60
(32) 平成29年度(第12回)読書に関する作品コンクール特選者表彰式.....	61
(33) 第2回横手市NIE研修会.....	61
(34) 小学校への円滑な移行のための保小給食交流の実施について.....	62

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
まちづくり推進部	<p>(1)第12回横手市民ステージ祭・平成29年度横手市交流美術展</p> <p>12月2日と3日の2日間、横手市民会館を会場に「第12回横手市民ステージ祭・平成29年度横手市交流美術展」を開催しました。</p> <p>【第12回横手市民ステージ祭】</p> <p>芸術文化の発表の機会を設け、芸術文化団体・個人の交流を図るとともに、市民の文化活動に対する意識の高揚を図る目的で開催し、2日間で38団体、370人の出演者が日頃の練習の成果を多くの市民の前で発表しました。</p> <p>【平成29年度横手市交流美術展】</p> <p>芸術文化の振興と向上に資することを目的として開催し、芸術文化協会に加盟する各団体や個人の絵画や写真、書道など123点が展示されました。</p>
まちづくり推進部	<p>(2)父親の家庭教育参加促進事業</p> <p>12月10日、平鹿生涯学習センターを会場に「お父さんと挑戦！ダンボールでお家づくり」を開催し、市内小学校1年生とその父親14組が参加しました。</p> <p>この事業は、父親の家庭教育参加促進による家庭での教育力の向上と、父親同士が子育てについて考え、交流を深める場の創出を目的に開催したものです。</p> <p>参加者からは、子どもと2人で考え、制作する過程がとても楽しく、貴重な時間が過ごせたとの声が聞かれました。</p>
まちづくり推進部	<p>(3)横手市冬休み子ども教室</p> <p>12月26日から1月13日にかけて、市内10カ所でそれぞれ6日間、冬休み中の小学生を対象とした「横手市冬休み子ども教室」を開催しました。</p> <p>子ども教室は、身近な公民館やコミュニティセンターなどの公共施設を会場として、午前9時から12時までの活動中に、朝読書や自主学習のほか、家庭ではできない様々な体験活動を行うもので、運営スタッフや講師を地域住民の方々に担っていただきました。</p> <p>参加した児童や保護者からは、学校とは異なる環境で、異なる学年の児童と交じり合う多様な活動に好評をいただきました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
<p>まちづくり推進部</p>	<p>(4)第6回チャンピオンズカップ横手東北中学校新人バスケットボール大会</p> <p>1月6日から8日にかけて、増田・横手・雄物川・大森体育館を会場に「第6回チャンピオンズカップ横手東北中学校新人バスケットボール大会」が開催され、東北各県から昨年秋の中学校新人大会で優秀な成績を収めた男女24チームが参加しました。</p> <p>6日には市内中学校のバスケットボール部と今回参加の県外チームで交流試合を行い、7日から東北新人ナンバーワンを目指し競技が行われました。</p> <p>男子は、山形県酒田市立第六中学校、女子は、岩手県盛岡白百合学園中学校がそれぞれ優勝を飾りました。</p>
<p>まちづくり推進部</p>	<p>(5)横手市民スキー大会</p> <p>2月3日、赤坂総合公園特設クロスカントリースキーコースを会場に「第4回横手市民スキー大会 クロスカントリー競技」が開催されました。</p> <p>今年で4回目の開催となった本大会は、小学生の部から一般の部まで267人が参加し、寒空の中、白熱したレースが繰り広げられました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
<p>まちづくり推進部 (横手地域局)</p>	<p>(6)横手地域の「冬のイベント」について</p> <p>横手地域では、1月から2月にかけて、各地区で「冬のイベント」が開催されました。</p> <p>【栄地区】 … 1月10日、世代間交流会(さかえ館) 栄地区婦人会の主催で、子どもから高齢者まで約100人が参加しました。参加者は、大屋梅にちなんだ「梅のたね飛ばし競争」に挑戦したり、伝承的な縄なえや餅つきなども行い交流を深めました。</p> <p>【黒川地区】 … 2月4日、雪まつり(オアシス館周辺) 約300人が集まった会場では、餅つきや餅まき、どんと焼き、スノーモービル体験などが行われたほか、参加者に豚汁や甘酒が振る舞われました。夜には、黒川地区の小学生や保育園児の協力で作られた約150個のミニかまくらに灯がともされ、会場全体をやさしい光で包みました。</p> <p>【境町地区】 … 2月3日、冬まつり(ふるさと館) 恒例となった地区の冬まつりに、約350人が参加しました。屋外では「雪に親しみ雪と遊ぼう」をテーマに「ケツすべり大会」や「みかん拾い大会」、屋内では餅つきや、カルタ大会などの遊びが行われ、参加者はお餅や納豆汁の振る舞いに舌鼓を打ちながら、楽しい時間を過ごしました。</p> <p>【金沢地区】 … 2月10日、雪まつり(金沢孔城館周辺) 金沢孔城館玄関前には、金沢保育園の園児や地域住民の協力により、たくさんのミニかまくらや大きなかまくら、雪の滑り台などが作られました。子どもたちの歓声が響く中で餅つきや餅まきも行われ、多くの来場者が賑やかに楽しみました。また、地区内の各家々の前にもミニかまくらが並び、地区全域に柔らかなろうそくの灯がともる、ほのぼのとした「雪まつり」になりました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
<p>まちづくり推進部 (増田地域局)</p>	<p>(7)第14回元祖さるはんない幻灯</p> <p>2月10日、11日の2日間、幻想的な夜の雪景色を創る「元祖さるはんない幻灯」が、狙半内地域センター運営協議会の主催で開催されました。</p> <p>増田町狙半内地域の川口から滝ノ下間の10キロメートルにおよぶ県道・市道沿いの雪壁に、住民総出で2～3メートル間隔で小さな雪洞を掘ってろうそくに火が灯され、その数は3,000本にも達しました。</p> <p>ろうそくの灯りが夜の雪景色を幻想的に彩り、また、各集落では、ユーモアあふれる雪像や甘酒コーナーなどの工夫を凝らしたおもてなしで、訪れた人たちを喜ばせました。</p> <p>近年、このイベント目当ての観光客も増え、温もりある田舎らしい心のこもった「おもてなし」が評判となっています。</p> <p>また、この幻灯を主催する狙半内地域センター運営協議会は、昨年11月に国土交通省と全国地域づくり協議会が主催する「地域づくり全国交流会議」において、「全国地域づくり推進協議会会長賞」を受賞しております。これは、地域住民が一体となって地域づくりに取り組んでいる団体・集落に贈られるもので、厳冬を逆手に地域を盛り上げている点が評価されました。</p>
<p>まちづくり推進部 (平鹿地域局)</p>	<p>(8)第30回槻の木光のファンタジー</p> <p>12月16日から1月14日にかけて、第30回槻の木光のファンタジーが開催されました。</p> <p>平鹿地域のシンボルである槻の木が高さ40メートルの巨大なツリーとなり、琵琶沼周辺とあわせて、約40,000個のLED電球でライトアップされたほか、琵琶沼のほとりに小学生が作成した絵灯籠が並び、県内外から訪れた約7,800人の来場者を迎えました。</p> <p>点灯式では、今年で30年を迎えた記念を祝し、うどんや甘酒の無料振る舞い、例年より多くの打ち上げ花火が来場者から大変喜ばれました。</p> <p>また、期間中の1月7日には協賛事業として、浅舞公民館・槻の木を会場に「第3回ひらかコスプレイベント」が開催され、アニメのキャラクターに扮した参加者や撮影者などが訪れ大いに盛り上がりました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
まちづくり推進部 (雄物川地域局)	<p>(9)おもものがわイルミネーション</p> <p>12月9日から1月8日にかけて、おもものがわイルミネーションが開催されました。</p> <p>初日の12月9日には、雄物川庁舎前において、「おもものがわイルミネーション点灯式」が行われ、地元保育園児がカウントダウンに合わせてスイッチを押すと、イルミネーションが一斉に灯り、会場からは歓声が沸き起こりました。その後、園児による歌や踊りが披露され、また来場した子どもたちには、一足早いクリスマスプレゼントが手渡されました。</p>
まちづくり推進部 (雄物川地域局)	<p>(10)年末年始行事伝承会「むかしの行事を体験しよう」</p> <p>12月14日、民家苑木戸五郎兵衛村を会場に、地域に伝わる年末年始行事を体験する催しが開催されました。</p> <p>これは、廃れつつある地域の行事を、子どもたちに伝え体験してもらうことを目的に、雄物川町文化財保護協会が行っているもので、今回で26回目となります。</p> <p>参加した雄物川小学校5年生の児童72人は、行事の由来や作法の説明を受けながら、しめ飾りづくり、若水汲み、灸立てなどを体験しました。</p>
まちづくり推進部 (雄物川地域局)	<p>(11)第26回銀河系宇宙ほらふき決勝大会</p> <p>1月13日、雄物川コミュニティセンターを会場に「銀河系宇宙ほらふき決勝大会」が開催されました。このイベントは、宇宙規模の「ほら話」で地域の人たちに笑いを届け、ほら話から地域活性化の糸口をみつけてもらおうと、雄物川町明道塾が主催しているものです。</p> <p>今年は、市内外から10組17名の出場者のうち、初めて中高生の参加もあり、会場は400人の観客で立ち見が出るほど盛り上がりました。大賞には「遺言」と題して発表した、羽後町の阿部則夫さんが選ばれました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
<p>まちづくり推進部 (大森地域局)</p>	<p>(12)おおもりケヤキ並木イルミネーション</p> <p>12月2日から1月8日にかけて、大森地域局庁舎前を会場に、大森地域の冬の風物詩「おおもりケヤキ並木イルミネーション」が開催され、大森リゾート村の芝桜をイメージしたピンクや白の LED 電球が幻想的な雰囲気演出し、街行く方々に楽しんでいただきました。</p> <p>初日の点灯式では、子どもたちがスイッチを押すとイルミネーションが一斉に点灯し、同時に花火も打ち上げられ、大きな歓声があがりました。点灯後は、炊き込みご飯・お汁粉、芝桜うどんの振る舞いや、子どもたちにはバルーンアートとサンタさんからプレゼントがあり、地域のたくさんの方々に賑わいました。</p>
<p>まちづくり推進部 (大森地域局)</p>	<p>(13)大森地域「ぼんでん発表会」</p> <p>県内で最も早い梵天奉納で知られる「三助稲荷神社梵天奉納行事」が、1月3日に行われました。</p> <p>奉納前に「ぼんでん発表会」が開催され、地元の子どもたちや町内会などが制作した10本の梵天が集まり、今年の梵天の特徴紹介や梵天歌が披露されました。</p> <p>発表会終了後は、子どもたちを先頭に、「ジョヤサ、ジョヤサ」の掛け声とともに、五穀豊穡や商売繁盛を願って梵天が奉納されました。</p>
<p>まちづくり推進部 (大森地域局)</p>	<p>(14)「交通死亡事故ゼロ3,000日達成」について</p> <p>大森地域が交通死亡事故ゼロ3,000日を1月28日に達成したことを称え、2月1日、市と横手警察署は、大森コミュニティセンターにおいて、大森地域交通安全対策協議会を表彰しました。会場には、大森地域の交通安全関係者ら60人が出席し、更なる記録更新を目指して積極的に交通安全活動をしていくことを誓い合いました。</p> <p>また、大森駐在所の高橋巡查長からは、ギターの弾き語りで交通安全を呼び掛けるオリジナルソングが披露されました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
まちづくり推進部 (大森地域局)	<p>(15)雪上イベントについて</p> <p>【歩くスキーの集い】 1月27日、大森多目的広場周辺を会場に、3年ぶりに「歩くスキーの集い」を開催しました。 速さを競う部門と自由に楽しむ部門に約100人が参加し、羽後カントリー倶楽部内の起伏ある約2キロメートルの特設コースで、自分の体力に合わせて心地よい汗を流していました。 終了後は、雪山すべりや宝さがしなどの「雪まつり」に参加し、雪国らしいイベントを楽しみました。</p> <p>【大森ジュニア・アルペン大会】 2月4日、平成29年度で最後の営業となる大森公園スキー場を会場に「大森ジュニア・アルペン大会」を開催しました。 競技は小学生学年別、男女別に大回転コースで実施され、参加した60人はグレンデに設置されたコースを独り占め、気持ちよさそうに滑走していました。</p>
まちづくり推進部 (十文字地域局)	<p>(16)第27回あきた十文字映画祭</p> <p>2月10日から12日までの3日間、十文字文化センターを会場に「第27回あきた十文字映画祭」が開催されました。 企画から運営まで地元スタッフによる実行委員会で行う、手作り映画祭に延べ1,305人が来場され、遠くは大分県からの来場者もありました。 今回はベトナム映画の「草原に黄色い花を見つける」を皮切りに、ドキュメンタリーやドラマ等、国内外のバラエティー豊かな12本の話題作が上映され、どの作品にも観客から温かい拍手が送られていました。 また、監督や俳優等映画関係者をゲストに迎えての舞台挨拶やゲストトークも行われ、映画製作の裏話等に興味深く耳を傾けていました。</p>
まちづくり推進部 (十文字地域局)	<p>(17)十文字雪まつり2018</p> <p>2月17日、道の駅十文字を会場に「十文字雪まつり2018」が開催され、多くの来場者で賑わいました。 恒例のガラガラ抽選会や、豪華景品が当たる大抽選会のほか、あまえこや豚汁の振舞い、十文字恒例の「麺・餅・お菓子まき」も行われ、会場は大いに盛り上がりました。 クライマックスには、イベント最大の目玉である「冬花火」が盛大に打ち上げられ、来場者を魅了しました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
まちづくり推進部 (山内地域局)	<p>(18)第12回いぶりんピック</p> <p>2月6日、山内公民館を会場に「第12回いぶりんピック」を開催しました。これは、山内地域伝統の「いぶりがっこ」を守り続けるとともに、更なる品質向上を目指すため、横手市と山内いぶりがっこ生産者の会が主催するもので、今回で12回目となります。</p> <p>天然由来の添加物を使用した「いぶりがっこクラシカル部門」には、横手市内で販売用いぶりがっこを生産する方々から14点、添加物を使用したいぶりがっこ及び燻製食品を対象とした「いぶりフリースタイル部門」には9点の出品があり、それぞれが丹精込めた自慢の一品の味を競いました。</p> <p>また、幼少期から地域の伝統的な食文化に興味を持ってもらうことを目的に、いぶりがっこを通じた食育事業も同時開催しました。参加したさんない保育園児24人は、いぶりんピック参加者から指導を受けながら、樽だしや真空パック、ラベル貼りなど一連の作業を体験しました。</p> <p>ラベルは、園児一人ひとりがデザインしたもので、完成後は、それぞれが自慢の一本を各家庭に持ち帰りました。</p>
まちづくり推進部 (大雄地域局)	<p>(19)大雄イルミネーション</p> <p>11月25日から12月24日にかけて、大雄地域では4回目となる「大雄イルミネーション」が開催されました。</p> <p>ゆとりおん大雄前の歩道に、高さ2メートルのアーチを80メートル設置したほか、スタジアム大雄のバックスクリーンに装飾を施し、約20,000個のLED電球が幻想的な雰囲気醸し出しました。</p> <p>初日の点灯式は不安定な天候にもかかわらず、約250人の来場者で賑わい、カウントダウンで色とりどりのイルミネーションが点灯し、花火が打ち上げられると、会場は大きな歓声に包まれました。来場者には、うどんや甘酒、おしるこなどが振る舞われたほか、子どもたちにはサンタクロースから一足早いクリスマスプレゼントが手渡されました。</p> <p>イルミネーション点灯式は、大雄地域を皮切りに、大森、雄物川、平鹿地域へと点灯リレーされ、4地域でのスタンプラリーも、市内外からたくさんの応募をいただきました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
<p>まちづくり推進部 (大雄地域局)</p>	<p>(20)2018大雄子どもフェスティバル</p> <p>1月27日、大雄交流研修館と大雄運動公園を会場に、「大雄子どもフェスティバル」を開催しました。</p> <p>これは、地域づくり事業の一環として、生涯学習奨励員や大雄母親クラブ「はんど・はんど」など、地域ボランティアの協力をいただきながら、大雄生涯学習センターが主催し、今回で19回目となります。</p> <p>屋内会場では、餅つきやヒップホップダンスショー、科学実験工作教室など、屋外会場では、スノーモービルや除雪車の乗車体験、雪中宝探し、ミニかまくらづくりが行われ、地域内外から訪れた約170人の親子連れが楽しみました。</p>
<p>健康福祉部</p>	<p>(21)第2回及び第3回保育実践力向上研修会</p> <p>【第2回保育実践力向上研修会】</p> <p>11月1日、雄物川コミュニティセンター及び沼館保育園、条里南庁舎を会場に、学校教育課と子育て支援課の共催による「第2回保育実践力向上研修会」を開催しました。</p> <p>保育士などの保育力の向上を図るとともに、小学校教諭などの保育に対する理解を深めることを目的に、秋田大学教育文化学部教授奥山順子氏による事前研修や沼館保育園による公開保育、鶴見大学短期大学部教授天野珠路氏による講話を実施しました。</p> <p>当日は、小学校、保育所、認定こども園などから69名の参加があり、事前研修によってポイントを持って見ることができたこと、保育士の専門性を活かし子どもたちの環境づくりをしていくことの重要性を認識したこと、保育所・幼稚園で何が大事にされているかを知ることによって小学校での取り組みに活かすことができることなどの感想がありました。</p> <p>【第3回保育実践力向上研修会】</p> <p>12月2日、条里南庁舎を会場に、同じく学校教育課と子育て支援課の共催による「第3回保育実践力向上研修会」を開催しました。</p> <p>改定保育所保育指針及び改訂認定こども園教育・保育要領について、改定の背景や何がどのように変わるのかなどについて学ぶことを目的に、鶴見大学短期大学部教授天野珠路氏による講義と、自己評価の具体的な方法についてグループ演習を行いました。</p> <p>当日は、保育所、認定こども園などから76名の参加があり、講師による講義やグループ演習を通して、自己評価等により自らの保育を振り返るとともに、求められている保育者の専門性と役割を再確認する研修になったと大好評でした。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
<p>健康福祉部</p>	<p>(22)平成29年度横手市認知症予防講演会</p> <p>11月25日、条里南庁舎を会場に「平成29年度横手市認知症予防講演会」を開催しました。この講演会は、横手市民が認知症に対して正しい知識を持ち、自ら認知症予防に取り組めることを目的に、平成25年度より開催しています。</p> <p>今年度は、シニア向けに講話と実技を取り入れながら全国で活動されている、認知症予防専門士の利根川くにこ先生を講師に「認知も介護も良い加減でハッピーライフ」と題して、ご講演いただきました。当日は悪天候にもかかわらず164名の方の参加があり、ユーモアを交えた認知症予防の話や脳トレ、音楽に合わせた運動など、会場が一体となった講演会となりました。</p> <p>参加した市民からは、「認知症予防から介護、疾患、からだの仕組みについてトータル的にわかりやすい言葉でお話いただき、楽しい時間を過ごすことができた。」、「来年もお願いしてほしい。」などの声が多く寄せられ大好評でした。</p> <p>講師の先生の音楽に合わせての実技や講話は、単なる認知症予防の取り組みだけではなく、日頃の健康づくりへの大切なメッセージとして参加した多くの市民の心に伝わりました。</p>
<p>健康福祉部</p>	<p>(23)「中学生と高齢者の絆を深める取組提案」コンクール発表会</p> <p>1月6日、条里南庁舎を会場に「中学生と高齢者の絆を深める取組提案」コンクール発表会を開催しました。この事業は将来の横手を支える中学生と、高齢者が世代を超えて、地域の支え合いについて考える機会とすることを目的としています。</p> <p>2回目となる今回は、市内中学校全8校から総数123点の応募があり、選ばれた各校代表1作品を発表していただきました。</p> <p>また、ゲストとして県立増田高等学校農業科学科の生徒の皆様をお迎えし、高校生による「簡易水耕レタス栽培装置を使用した交流創出プロジェクト」の事例発表をしていただきました。この取組発表は今年の日本農業クラブ全国大会で優秀賞を受賞されており、来場者からも大きく評価され、中学生にも良い刺激を与える機会となりました。</p> <p>当日は133人の方にお越しいただき、多くの方から「中学生とは思えない内容であった。」、「ぜひ提案を実現してほしい。」との声が聞かれました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
商工観光部	<p>(24)「横手市就職面接会・企業説明会」</p> <p>1月31日、横手セントラルホテルを会場に、求職者と市内企業が一堂に会した「横手市就職面接会・企業説明会」を、ハローワーク横手・県平鹿地域振興局・横手雇用開発協会と連携して実施しました。これは、正社員就職及び A ターン就職の促進により雇用の拡大を図るとともに、企業の人材確保を支援することを目的に開催しております。</p> <p>当日は企業52社、求職者43名が参加し、求職者は熱心に企業採用担当者の説明に耳を傾け、また企業側も一人でも多くの優秀な人材を確保しようと、企業PRに努めていました。</p>
商工観光部	<p>(25)出前かまくらについて</p> <p>横手の冬ブランド化事業の一環として、伝統行事「かまくら」の観光PR並びに誘客を図るため、「出前かまくら」を開催しました。</p> <p>12月の姉妹都市厚木市を皮切りに関東・関西圏を中心に実施しましたが、特に「本物のかまくら」をつくる「かまくら職人」の効果が大きく、現地のマスコミからも注目を集めました。</p> <p>多くの会場で前年以上の来場者数を記録し、お客様が「横手のかまくら」を体験しました。</p> <p>【全11カ所】・・・対前年度2か所減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月24日 神奈川県厚木市 新東名厚木南 IC 開通記念 ・1月6日～8日 神奈川県横浜市 横浜八景島シーパラダイス 大阪府大東市 オペラパーク ・1月12日～14日 大阪府 伊丹空港 ・1月13日～14日 千葉県市川市 ニッケ・コルトンプラザ ・1月17日～23日 富山県高岡市 株式会社 能作 ・1月21日～22日 岩手県釜石市 シープラザ遊 ・1月27日～28日 兵庫県加古川市 ニッケ・パークタウン ・1月31日～2月4日 秋田市 エリアなかいち ・2月1日～2日 岩手県一関市室根町 ・2月3日～4日 岡山県真庭市 ひるぜん雪恋まつり

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
商工観光部	<p>(26)横手の雪まつりについて</p> <p>2月4日の「ぼんでん唄コンクール」を皮切りに、「横手の雪まつり」が2月17日まで開催されました。</p> <p>2月15日、16日のかまくらは、平日にもかかわらず多くの観光客が来場し、甘酒や餅の振る舞い、子どもたちのおもてなしを楽しんでいました。</p> <p>16日の「ぼんでんコンクール」では、各町内から趣向を凝らした豪華絢爛なぼんでん約30本が集まり、その出来栄を競うとともに、17日の「ぼんでん奉納」では、ほら貝の音と「ジョヤサ！」の掛け声で勇壮に奉納されました。</p> <p>期間中は、多くの報道機関や海外 YouTuber に取り上げられ、横手のかまくらを全国にPRすることができました。</p>
商工観光部	<p>(27)来てたんせ・あきた 見てたんせ 横手・湯沢・羽後・東成瀬</p> <p>1月10日から14日にかけて、仙台市の東北電力グリーンプラザを会場に、秋田県南地域の冬の観光イベントや特産品販売を行う「来てたんせ・あきた 見てたんせ 横手・湯沢・羽後・東成瀬」が開催され、延べ1万人を超える方が会場を訪れました。</p> <p>東北電力横手営業所の呼びかけにより、営業所管内の4市町村が参加し、秋田県や参加市町村の観光協会などと連携しながら、ステージイベント、新商品の試食会など効果的なPR活動を展開しました。物産コーナーでは、日本酒、ジュース、甘酒、漬物、菓子類などが人気で、完売商品が出るなど好評を博しました。</p>
商工観光部	<p>(28)首都圏、仙台圏における横手産品販路拡大事業について</p> <p>生産農家、事業者が参加し、首都圏、仙台圏の各店舗を活用した冬の横手フェアを開催しました。</p> <p>1月27日、28日の2日間、東京都スーパーサカガミ清瀬店では、生産者が店頭立ちリンゴや野菜のPR販売を行ったほか、2月16日から18日までの3日間は、仙台市藤崎百貨店において、製造事業者がいぶりがっこと漬物各種、ジュース類の試食・試飲販売を行いました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概 要 等
教育総務部	<p>(29)後三年合戦シンポジウムの開催</p> <p>11月25日、26日の2日間、陣館遺跡の国史跡指定を記念した後三年合戦シンポジウムを「金沢柵と鎧ヶ崎城の解明を目指して」と題して、美郷町教育委員会との共催で開催しました。</p> <p>1日目は、平成29年度発掘調査地の現地説明会を行いました。2日目は、金沢孔城館大ホールを会場に、文化庁の近江調査官による後三年合戦関連遺跡の意義についての特別講演、後三年合戦関連遺跡の調査や活用の論点・課題について、パネリストによる意見交換が行われました。</p> <p>市内外から240名の参加があり、後三年合戦関連遺跡についての理解を深めることができました。</p>
教育総務部	<p>(30)横手市創作子ども歌舞伎「康楽館演劇祭」上演交流</p> <p>12月10日、小坂町の「康楽館演劇祭」において、9月に開催された「横手市創作子ども歌舞伎」に出演した小中学生13名が、小坂小学校演劇クラブの皆様と「小坂横手蛙會戦歌舞伎賑」と題した創作歌舞伎を演じ、交流を深めました。</p> <p>現存する明治の芝居小屋の舞台を踏んだ子どもたちは、後三年合戦の様子をとらえた第二幕「いくさのかぜ」を堂々と演じ、たくさんの観客から大きな拍手が送られました。</p>
教育総務部	<p>(31)雄物川郷土資料館第4回特別展「ひな人形展」</p> <p>1月20日から4月15日まで、雄物川郷土資料館を会場に「ひな人形展～旧家の人形とつるし飾り～」を開催しています。</p> <p>このひな人形展は、今回で通算30回目であることから、特別展示室での旧家に伝わるひな人形や押絵、中山人形、つるし飾りなどの展示に加え、民家苑木戸五郎兵衛村、雄物川コミュニティセンターでも市民から寄贈を受けたひな人形の展示を行っています。</p> <p>また、期間中は「お茶会」や講師を招いての「小物づくり教室」などの催しも計画されています。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
<p>教育総務部</p>	<p>(32)平成29年度(第12回)読書に関する作品コンクール特選者表彰式</p> <p>1月5日、条里南庁舎を会場に「平成29年度(第12回)読書に関する作品コンクール特選者表彰式」を開催しました。</p> <p>特選を受賞されたのは、文章部門が朝倉小学校5年生の伊藤 美緒(いとう みお)さん、短文部門が山内中学校2年生の高階 心花(たかかき みはな)さん、絵画部門が浅舞小学校4年生の佐々木 伊織(ささき いおり)さんの3名で、これまでで最も多い応募数4,246点の頂点にふさわしい力作でした。</p> <p>また、1月27日、28日の2日間にわたり開催した「入賞作品展」では、入選78点を含む合計81点の作品をY2ぷらざ1階オープンスペースに展示し、多くの来場者にご覧いただくことができました。</p>
<p>教育指導部</p>	<p>(33)第2回横手市 NIE 研修会</p> <p>1月19日、条里南庁舎を会場に、市内小中学校教員を対象とした「第2回横手市NIE研修会」を開催しました。</p> <p>読売新聞東京本社から教育ネットワークNIE企画デザイナー秋山純子氏、専門委員岩本洋二氏を招聘し、「新聞で学ぶ～情報活用能力育成の基盤に～」のテーマのもと、両講師による講義及びワークショップを行いました。</p> <p>本市で継続して取り組んでいる『言語活動による学力向上推進事業』における共通実践項目の1つであるNIE推進について、新しい学習指導要領で求められる資質・能力の観点から、学校での実践的な取組の方向性と方策を学ぶことができました。</p> <p>専門的立場の講師を招き、学校と行政がともに、教育活動における新聞活用について考える機会には本市において初の試みとなり、1月31日読売新聞全国版でも紹介されました。</p>

平成29年12月議会定例会以降の行政一般報告

担当部局	概要等
教育指導部	<p>(34)小学校への円滑な移行のための保小給食交流の実施について</p> <p>平成29年11月から平成30年2月にかけて、学校給食センターと連携し、吉田小学校と吉田保育所、十文字第二小学校と三重保育所、横手北小学校と相愛保育園、醍醐小学校と醍醐保育園、朝倉小学校と横手幼稚園・アソカ保育園・みいりの保育園、雄物川小学校と沼館保育園・雄物川保育園において、小学校児童と保育所年長児の給食交流を実施しました。</p> <p>この交流は、年長児が小学校に入学するにあたり、小学校生活に円滑に移行できるよう入学への期待を高め給食への不安軽減を図るとともに、児童の上級生としての意識を高めること及び喫食状況について教職員の理解を深めることを目的としております。</p> <p>いずれも楽しい給食時間となり有意義な交流になったとの感想が寄せられました。</p>